

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Prenatal tobacco smoking is associated with postpartum depression in Japanese pregnant women: The Japan environment and children's study.

和文タイトル: 日本人女性における妊娠期喫煙状況と産後うつとの関連

ユニットセンター(UC)等名: 大阪UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Journal of Affective Disorder

年: 2020 月: 3 巻: 264 頁: 76-81

筆頭著者名: 崔美善

所属UC名: 大阪UC

目的: 日本人女性を対象に、妊娠期喫煙状況及び禁煙期間が産後うつと関連するかを検討することを目的とした。

方法: 「喫煙したことがない」妊婦と比べて、「妊娠に気付く前に禁煙した」、「妊娠に気づいて禁煙した」、「喫煙を続けている」妊婦が、産後1か月時に産後うつ傾向のオッズ比、及び「妊娠に気付く前に禁煙した」妊婦の禁煙期間(5年以内、>5~10年、>10年)と産後1か月時の産後うつ傾向オッズ比をロジスティック回帰分析で検討した。

結果: 全体の9%の参加者が産後1か月時に産後うつ傾向を示した。「妊娠に気づいて禁煙した」妊婦と「喫煙を続けている」妊婦は、「喫煙したことがない」妊婦と比較して、産後1か月時に産後うつ傾向がいずれも有意に高かった。また、「妊娠に気付く前に禁煙した」妊婦では、分娩時より5年以内に禁煙した妊婦で「喫煙したことがない」妊婦と比べて産後うつ傾向のオッズ比が1.10で有意に高かった。

考察:(研究の限界を含める)

75,234名の母親を対象に行ったアメリカの大規模コホート研究では、妊娠に気づいてから禁煙した妊婦と妊娠中喫煙を続けた妊婦は喫煙したことない妊婦と比較して有意に高い産後うつ傾向を示したが、6,421名の母親を対象に行ったカナダの研究では多変量調整後、妊娠期喫煙と産後うつとの関連が見られなかった。本研究では、大規模な出生コホート調査のデータを用いて妊娠期喫煙状況と産後うつとの関連を明らかにした。また、分娩時までの禁煙期間と産後うつとの関連を示したのは本研究が初めてである。

結論: 妊娠中の喫煙、妊娠に気づいてからの禁煙、分娩時より5年以内の禁煙が産後うつのリスクを高める可能性を示唆する。